



写真：安来市立病院（広瀬町広瀬）



写真：安来第一病院（安来町）

# 医療提供体制の将来像

## 持続可能な医療提供を目指し 医療提供体制を見直します

令和6年度、安来市では、人口減少などの社会環境の変化に対応し、将来にわたり安定して質の高い医療を提供するため、「安来市医療提供体制検討委員会」を設置し、医療提供体制の将来像について検討を行ってきました。この検討委員会のまとめとして、「安来市立病院と社会医療法人昌林会安来第一病院（以下：安来第一病院）の両病院について、統合再編も含めた抜本的な対応が必要」との講評が示されました。

この講評をふまえて、安来第一病院と協議を行った結果、医療提供体制の将来像について、基本的な方針で一致することができ、今年9月18日の市議会で内容を公表しました。

### 基本方針（概要）

1. 安来市立病院と安来第一病院は、経営統合を目指します
2. 中山間地域の外来診療を担う外来拠点施設を広瀬地域に設置します
3. 経営統合後の新病院として、病院施設を整備します

▶ 特集として、詳細を次ページから紹介

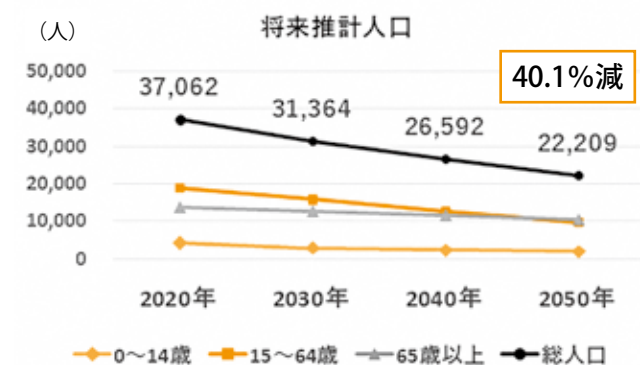


## Q. なぜ医療提供体制の見直しが必要なのか？

### A. 人口減少などの社会変化に対応し、安定した医療提供を継続するため

## 医療提供体制を見直す背景

### 01 加速する人口減少と少子高齢化



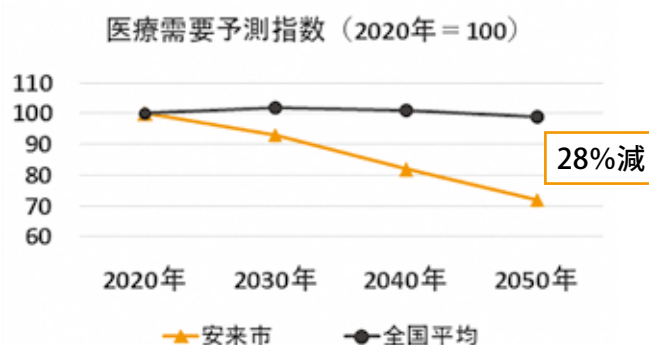
安来市では、人口減少と少子高齢化が急速に進んでいます。2000年には約45,000人だった総人口が、2020年には約37,000人にまで減少しました。

さらに、2050年には総人口が約22,000人まで減少し、65歳以上の老年人口が、15歳～64歳の生産年齢人口を上回ることが予測されています。これは、2020年と比較して約40%の人口減少にあたり、高齢者の割合も40%を超える見込みです。

### 02 医療需要の縮小

人口減少が進むことで、医療の需要も減少していきます。安来市では、2050年に2020年と比較して医療需要が約28%減少すると予測されています。

このことから、持続的に医療提供を続けていくためには、将来の医療需要に見合う規模に医療提供体制を見直す必要があります。



### 03 深刻な医師不足



安来市立病院では、医師の確保が大きな課題となっています。

現在、常勤医師数はピーク時の半数以下に減少しています。総合内科の医師を確保して総合診療や訪問診療を強化する一方で、対応できる疾患や救急の受け入れに制限が生じています。

今後、生産年齢人口の減少により、医師をはじめとする医療従事者の確保がさらに難しくなる見込みです。



## 安定した医療提供のために

社会環境の変化に加え、近年の物価や人件費の上昇により、両病院の経営はますます厳しくなると予想されます。また、安来市立病院の本館は築50年を超え、施設の老朽化が進んでいます。今後、施設整備の負担も大きくなる見込みです。

さらに、国の方針としても、社会構造の変化を見据え、医療機関の役割分担を明確にし、再編や連携を進めて限られた資源を効率的に活用する医療提供体制づくりが求められています。

こうした状況を踏まえ、検討委員会では「両病院が現状のまま医療提供を続けることは難しく、統合再編も含めた抜本的な対応が必要」との講評が示されました。

そこで、安来第一病院と協議を重ねた結果、医療提供体制の将来像について、基本的な方針が一致しました。今後、持続可能な医療提供を目指し、病院機能や資源の効率化を図ることで、引き続き地域の医療を守っていきます。

市として、持続可能な医療提供体制の確立に向け、責任を持って取り組んでまいります。

## 医療提供体制の将来像（基本方針）

ー将来にわたって安全・安心な医療を提供するためにー

### 1. 安来市立病院と安来第一病院は、経営統合を目指します

- ・人口減少などの社会変化に対応し、持続可能な医療提供体制を築くため、両病院の経営統合を目指します。
- ・統合後の経営形態は、社会環境の変化に柔軟に対応できる形を検討します。
- ・近隣の大学病院などとの連携を強化し、医療人材を安定して受け入れられる体制を整えます。

### 2. 中山間地域の外来拠点施設を広瀬地域に設置します

- ・病院を集約化した後も、外来診療を続けられるよう、広瀬地域に「拠点診療施設」を整備します。
- ・デジタル技術等を活用しながら、無医地区を含む中山間地域での医療を継続します。
- ・伯太地域での医療は、安来市医師会との連携で引き続き維持します。

### 3. 経営統合後の新病院を整備します

- ・安来市立病院の老朽化などを考慮しつつ、将来にわたり必要な医療機能や規模を検討し、新病院を整備します。

市議会での公表の様子はこちら  
(YouTube)



▶ 新病院が担う機能については次ページへ



## 新病院が担う6つの医療機能（基本方針）

### 01 医療の窓口機能

高齢者をはじめとした患者さんの窓口として、救急対応や初期治療、入院受け入れなどを行います。必要に応じて、専門性の高い病院（高度急性期病院）などへ引き継ぎます。また、早期のリハビリテーションや介護施設などとの連携により、患者さんの早期退院と在宅療養を目指します。

### 02 不採算医療を担う

市の責務として、中山間地域での医療や救急医療などの不採算医療を継続します。人口の少ない中山間地域での医療や救急の受け入れは、採算が取りにくい部門ですが、皆さまの安心した生活に欠かせない医療サービスです。新病院でも、この役割をしっかりと果たしていきます。

### 03 在宅療養患者のサポート

他の医療機関や介護・福祉施設と連携し、在宅療養中の患者さんが自宅や施設で安心して暮らせるよう、医療・介護を継続的にサポートします。訪問診療や入院受け入れなどの医療サービスを提供し、高齢になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けられるよう、患者さんを支えます。

### 04 高度急性期病院の後方支援

医療機関には、初期対応を行う病院や高度で専門的な医療を行う高度急性期病院など、役割の違いがあります。そのため、高度急性期病院が軽症患者への対応で手がいっぱいになり、重症の患者を受け入れられなくなる状況は避けなければなりません。新病院では、治療を受けて回復しつつある患者さんや軽症・中等症の患者さんの受け入れを強化することで、松江や米子などの高度急性期病院をサポートします。

### 05 災害・新興感染症への対応

新型コロナウイルスなどの新興感染症が広がった際は、入院や外来、検査などの必要な医療を迅速に提供します。また、災害発生時には、負傷者の受け入れや治療など、必要な医療を担います。

### 06 医師の確保

医師を育成するための指導医を確保し、研修機能を整備します。また大学病院などとの連携を進め、必要な医師を安定して確保できる体制を整えます。

## Next 今後の進め方

持続可能な医療提供体制の実現に向け、医療機能や規模などの詳細について、今後も協議を継続していきます。関係機関や市民の皆さまの意見を伺いながら、令和8年度を目標に基本構想を策定し、皆さまにお知らせする予定です。

引き続き、将来にわたって安全・安心な医療を提供するための体制づくりを進めていきます。

### お問い合わせ

地域医療推進室 TEL 23-3277

